

ヒバの樹下植栽



スギ林内に樹下植栽されたヒバ

道南南地方においては、近年の複層林施業の導入に伴い、郷土樹種であり材質的にも評価が高いヒバが樹下植栽される事例が増えています。しかしヒバの樹下植栽技術や、植栽適地などについて研究した例は少なく、早急な造林技術の確立が望まれています。そこで林業試験場道南支場では、ヒバの植栽に適した林内の明るさや植栽適地の研究に取り組んでいます。

植栽可能な林分の明るさは？

一般にスギやトドマツでは、樹下植栽するときの林内の相対照度は20%以上が必要とされています。しかし、ヒバの場合これらの樹種よりも耐陰性が高く、相対照度10%程度でも植栽が可能で、樹高成長は裸地に植栽したときの約6割が確保されます。また相対照度10%程度では下草の発生も少ないので、複層林施業のメリットである下刈り作業の省力化を実現できます。

植栽適地は？

ヒバの成長に最適な土壤水分をスギ、トドマツと比較した結果、ヒバの樹高成長が最も良い条件は、スギと一致しており、トドマツよりも湿ったところであることがわかりました。このことから、ヒバを植栽する場合、スギ林内のときにはスギの樹高成長が良い場所で、トドマツ林内のときにはトドマツの適地よりもやや湿った場所で、良い成長が期待できます。なお、ヒバは耐乾燥性が低いので、尾根などの乾燥しやすい場所への植栽は避けたほうが良いでしょう。

トドマツ林内のときにはトドマツの適地よりもやや湿った場所で、良い成長が期待できます。なお、ヒバは耐乾燥性が低いので、尾根などの乾燥しやすい場所への植栽は避けたほうが良いでしょう。

ヒバの樹種特性

耐陰性	スギ	<	トドマツ	<	ヒバ
耐乾燥性	ヒバ	<	スギ	≒	トドマツ
耐過湿性	トドマツ	<	ヒバ	<	スギ

(育林科)